



リアチューニングのリアバンパーからハミ出ているのは、代表の上園サンが趣味で作ったファンオフ4本出しのロムフレード。コンパクトなサイレンサーは、バイク用の汎用品流用なんだとか。

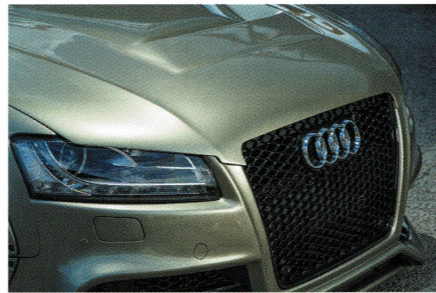
**BASE CAR :** 2009 AUDI A5  
**EXTERIOR :** MILLENNIUM JADE PAINT FOR NISSAN R34 GT-R, SUPER MADE UNIVERSAL BONNET DUCT, ORIGINAL BAD FACE BONNET (COVERED HEAD LIGHT & GRILLE), RIEGER TUNING FRONT&REAR BUMPER, IMPORTED OVER FENDER/SIDE SKIRT/TRUNK SPOILER  
**WHEELS :** GMR GS-105 (F=20x10.0-56 / R=20x11.5-50) **TIRES :** F=ATR SPORT 2 (225/30-20) / R=NITTO INVO (285/25-20)  
**SUSPENSIONS :** ROAM AIR AIR SUSPENSION/MANAGEMENT SYSTEM, ONE-OFF PIPING SYSTEM, AMTECS FRONT UPPER ARM, SKID RACING REAR TOE CONTROL ARM, SHMD REAR UPPER ARM  
**BRAKE :** F=326 POWER 8POT+405mm ROTOR / R=JEKIT 355mm BIG ROTOR **TUNING :** AIR CLEANER, ONE-OFF SUCTION PIPE/EXHAUST SYSTEM



ラジエターやブレーキフルードのタンクを移設。配線類をスマートにまとめ、カバー類をライムグリーンで彩るなど、エンジンルームもひと手間入り。



ホイールは鍛造のGMR GS-105。20x10.0-56/11.5-50の極太サイズを、海外製のビス留めオフアフェンでスッポリ覆う。ブレーキも326パワーの8ポット+405mmローターという上玉を隠し持つ。



延長したボンネットがヘッドライトにかぶさる「バッドフェイス」は珍しいが、勢い余ってフロントグリルにもかぶさるって例はお見かけしないハズ。汎用のボンネットダクトもヤバさを増長す。



こちらはデモカーのオーディアA5。R34スカイラインの人気色・ミレニアムジェイドでペイントし、見飽きたユーロスタイルとは一線を画している。それに付けても、車高の低さよ。



BAGGED STYLING #09

# ROAM AIR

## × AUDI A5

### コスパ最強案件

あんなエアサス、こんなエアサス。もういろいろありすぎて、選ぶほうも大変だあーっ！そこで目安の1つとなるのが、価格ってヤツ。「安くて信頼できるの、ないのお？」の声に答える、とっておきのアイテムをご紹介します！



走り到此だわると言えば、別タンク式アブソーバーにすることもOKで、これがなんと4本で+5万円！どこまで安いんだ、ロームエアー!!



エアバッグは耐久性に優れたペローズ式を採用。なお、走りにこだわりたいオーナーのために、D2レーシングのアブソーバーにロームエアのエアバッグを組み合わせたスペシャルセットも選べるぞーだ。

**ロームエア エアサスキット** 価格: 29万円(国際送料3万円込み)

キット内容/エアサスダンパー4本、マネージメントシステム、コントローラー、420ccサイレントコンプレッサー、コンプレッサー用リレー、3ガロンアルミシムレスタンク、フィッティング、8mmエアホース、バッテリーケーブル、ミストフィルター



コントローラーは5つの車高を記憶できる機能や、エンジンスタートと同時に任意の車高に自動的に変化する機能を持つ。もちろんアプリのインストールで、お手持ちのスマホからBluetoothを使って操作することも可。

どんなパーツも二極化が進んでいる。早いハナシがブランド品とそうでないもの。高いものと安いもの。どっちの引力に引っ張られていくかはオーナーそれぞれの目標、価値観、おサイフの厚さなどによって違ってくるので、本誌が「絶対にコレがいいっ！」と、断定するようなマネはできない。だが、「こんないいもの、ありませぬ」とアドバイスするのは、全然問題ないハズだ。で、コスパ派に耳ヨリなお得情報を1つ。価格の安さと信頼性を優先させたいのなら、「ロームエア」の製品がいいかもしれない。だって、エアサスの足とマネージメントが全部コミコミで29万円(っ)という、これ以上の破格値はないってかなりの衝撃プライスを堂々提示中なんだから。

「中国のメーカーが中国と台湾で製造しているって点が、安さの最大の理由だと思えます。とはいえ、エアサスは命を預かる大事なパーツですから、信頼性もなくてはなりません。そこで、エアバッグを日本の検査機関に持ち込み、強度試験を行いました。結果、3.5tの荷重までOKという評価をいただきました。このことがお客様の安心の目安になればうれしいです」

と、同社の代表である上園サンは安さの秘密と同時に、それだけじゃない製品であることを熱烈アピール。エアサスを選ばない(選べない)ことの理由の1つにあるのが、値段の高さ。でもでも、ロームエアならではの、壁を、いともカンタンにヒョイと乗り越えてくれるんですわ!